

みくみ昔ばなし 第38話

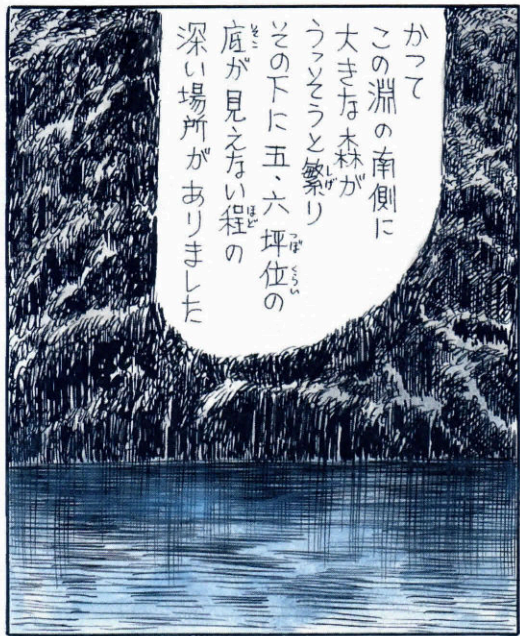
マスカ淵

ぶち

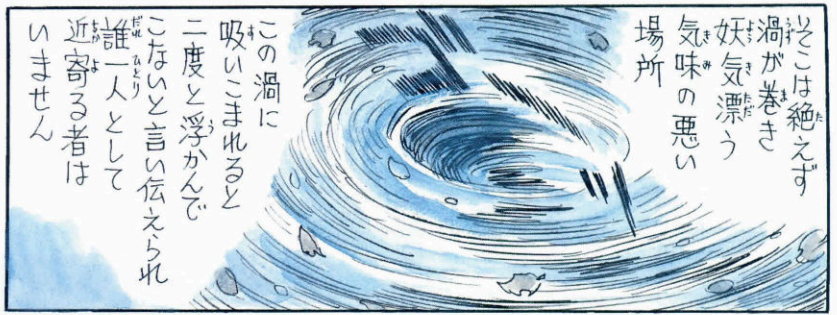
中 建 次



マスカ淵は
一ノ瀬の下
三隅川と
杉山川の
合流する所に
あります



かつて
この淵の南側に
大きな木林が
うんとと繁り
その下に五、六坪位の
底が見えない程の
深い場所がありました

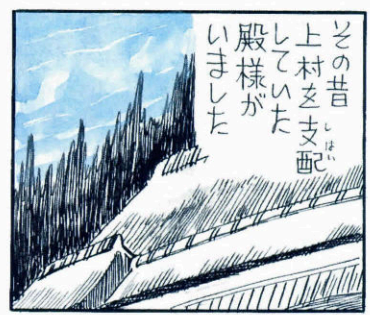


この渦に
吸いこまれると
二度と浮かんで
こないと言ひ伝えられ
誰一人として
近寄る者は
いません

ここは絶えず
渦が巻き
妖気漂う
気味の悪い
場所



そんなマスカ淵も
度々の洪水による
河川のはんらんや
改修により
昔の面影は
今はありません



その昔は
上村を支配
していた
殿様が
いました



その家來の家に
十四、五歳の
マスという名の
女の子が子守り
としてやとわかれ
ていました



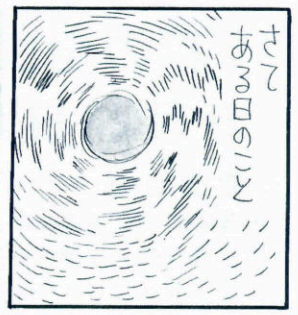
マスは山奥の
貧しい家に生まれ
幼い時から
苦勞を
重ねて
育ちま
した



でも少しも
ひねくれたところ
はなく極めて
素直で
純情可憐

だからマスは
主人をはじめ
多くの村人に
愛されて
いました

子ども達も
よく可愛がるので
マスになつき
マスも幸せな
日々を過して
いました



さて
ある日のこと

